

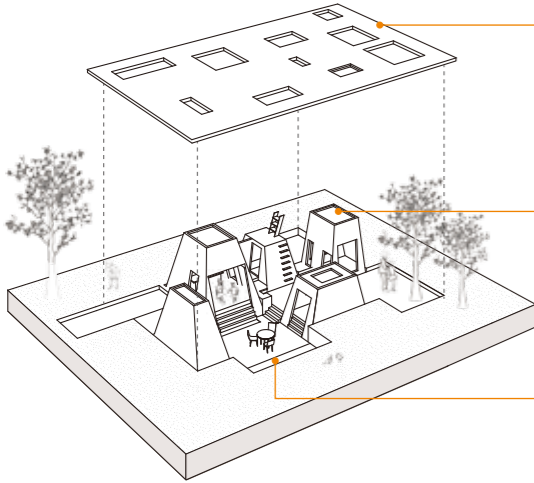
最優秀賞

大久保 尚人

芝浦工業大学大学院

【作品名】大地が息づく住まい

空間構成「土地と一体となった建築」



屋根上空間

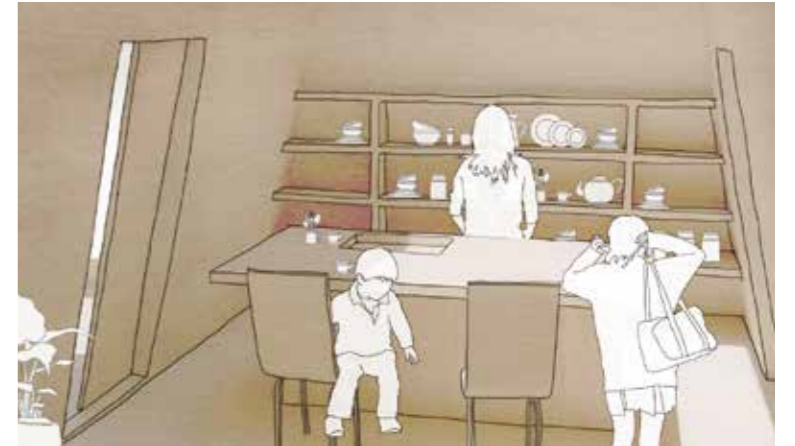
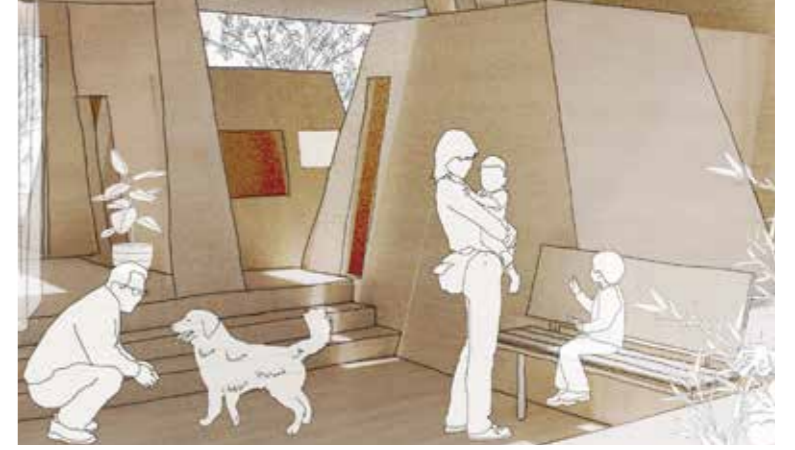
屋根上は広々とした広場空間。内部に木漏れ日のような空間を演出するためのトップライトを設け、上下の繋がりを演出。

土壁のコア

土地と連続するように設けたコアにはプライバシーが求められる機能を入れている。加えて屋根を支える主構造の役割も担う。

土のくぼみ

土のくぼみ空間は、暮らしの中で外部との接続を助け、加えて生活を拡張する役割を担う。

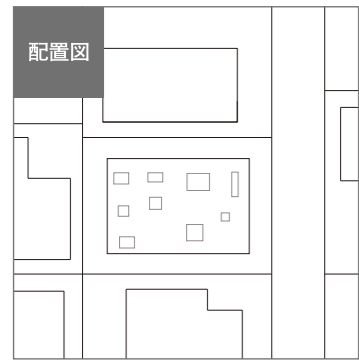


SITE 山梨県富士吉田市

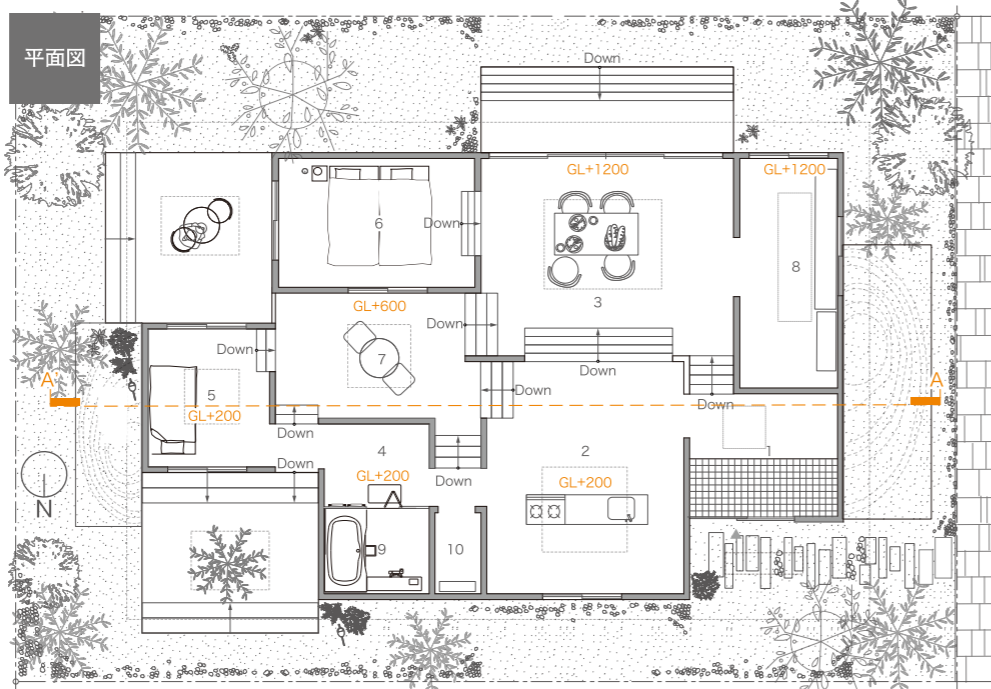
住宅地開発がすすむ自然豊かな敷地

都心部まで一時間弱に位置している自然豊かな住宅地。働き方の変化とともに郊外に暮らす人が増えていくことが予測される中で需要が高まっている地域。

配置図



- 1.玄関
- 2.キッチン
- 3.リビング
- 4.水回り
- 5.子供部屋
- 6.主寝室
- 7.フリースペース
- 8.仕事部屋
- 9.浴室
- 10.WC



設計コンセプト

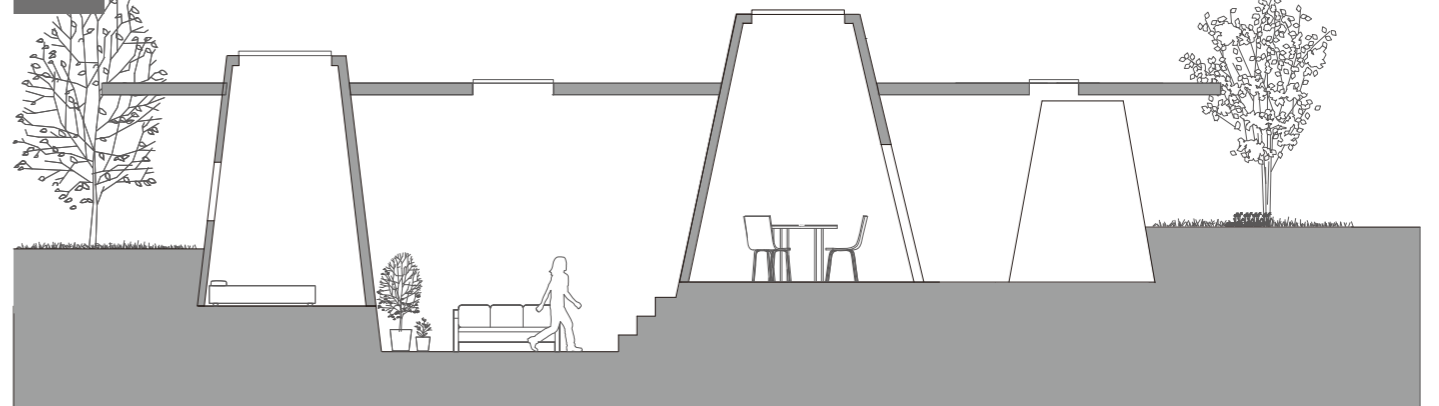
コロナの影響により家の中にいる時間が多くなりつつある昨今に、現状の住宅の閉じ切った形態に窮屈さと息苦しさを感ずる人が増えてきているのではないだろうか。そこで、このような状況だからこそもう一度「外との繋がり」「自然との暮らし」を築くための住宅を考える必要があると感じました。現状の住宅は外部と内部が明確に分かれており、現状の建築の建てられ方に問題があると考えました。また、現状の住宅計画では、建築と敷地を切り離し、敷地に建築を置いた後、その余りとして外構を扱うことが多くあります。これが、できあがった後も敷地と建築を切り離してしまうことに繋がっていると思いました。本提案では、現状のように敷地に対して建築を一度切り離すのではなく、建築と敷地を同時に扱い「土地を建築する」ことで自然との豊かな暮らしを築くための住宅を提案します。

設計手法として、「敷地に掘りこまれた場所」と「小山のように盛り上げられた場所」の単純な操作によって生まれた場所にそと屋根をかけてあげるというある種、初源的な建築の創られ方を現代的に再解釈し住宅を作り上げています。結果としてできあがった空間では、大地の恵みである土の「調湿効果」「蓄熱効果」など生活を快適にする恩恵を受けて暮らすことができます。さらに、閉じすぎず開きすぎない空間の中では、大地の存在を確か感じながら、空間の中を移動しながら自分が心地よいと感じる場所を探しながら暮らすことができます。この提案は、進歩する技術の中で、素材や土地がもつ豊かさに気づくことができる建築の本質に迫るものではないでしょうか。

審査委員講評

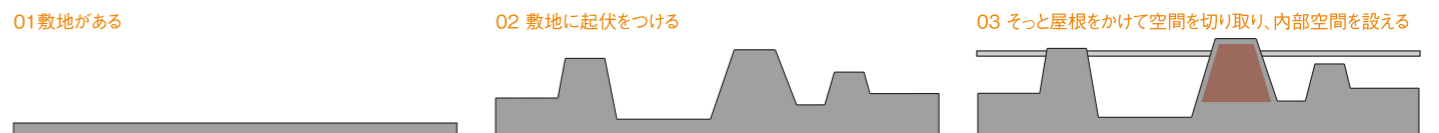
まさに地産地消の家。古来、日本の住宅はその地で産する木、紙、土を基本の建築素材として使ってきました。その伝統を21世紀の今に、愚直に再現しています。どこか見たような気もするし、全くあたらしいデザインのような気もする不思議な建物。身の回りで手に入る材料を使いながら、自分で修復しつつ住み継いでいく楽しさもありそうです。

断面図



SECTION A-A'

設計プロセス「土地を建築する」



夏は涼しく、冬は暖かい土壁の温熱環境

蓄熱・調湿・遮音

～心地よい空間を実現する土壁の万能さ～
生活の温熱環境を整える調湿効果と蓄熱効果に加えて、遮音効果、脱臭効果、防火効果など多岐にわたる土壁の環境効果。部屋ごとに土壁の塗り材を適切に変えることで、より快適な生活を設えることができる。

用途に適した仕上げ材の使い分けと活用

- | | | |
|--|---|---|
| <p>玄関</p> <p>01 火山白土
長い月日をかけて自然が作り出す天然素材。上質な質感が得られる。</p> | <p>台所</p> <p>02 珪藻土
湿度の高い水分を吸い、乾燥時には水分を出す調湿機能がある。</p> | <p>トイレ</p> <p>03 脱臭土
臭気成分が土壌表面に吸着して、土壌中に移行し微生物により分解される。</p> |
| <p>寝室</p> <p>04 多孔質土
調湿効果、多孔質な表面が遮音効果をもたらす。</p> | <p>寝室</p> <p>05 火山灰土壌
調湿効果とともに強度も優れており、住空間に適した素材。</p> | <p>客間</p> <p>06 聚楽土
極細やかな土特有の高級感のある質感が空間に落ち着きと癒しをもたらす。</p> |